

道路事業の再評価資料

〔国道148号 小谷道路〕

平成25年10月

北陸地方整備局

目 次

1. 事業の概要	1
1) 事業の目的	1
2) 事業の概要	2
2. 現在に至る経緯等	3
1) 事業の経緯	3
2) 事業の進捗状況	3
3) 今後の事業展開	3
3. 当該道路の役割・効果	4
1) 3便益に係る整備効果	6
① 走行時間の短縮	6
② 交通事故件数の減少	7
2) 防災面を含む多様な効果	8
① 幅員狭小・線形不良箇所 の 解消	8
② 局所的な防災上の課題の解消	9
③ 冬期交通障害の解消	10
④ 救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上	11
4. 費用と効果	12
5. 防災技術の専門家による委員会の審議結果	13
6. 対応方針（原案）	14
参考資料	15

1. 事業の概要

1) 事業の目的

当該事業は、

- 幅員狭小・線形不良箇所の解消
 - 局所的な防災上の課題の解消
 - 冬期交通障害の解消
- など

を目的とし、国道148号の長野県北安曇郡小谷村大字北小谷字穴平から字下平間について直轄権限代行により道路整備（延長L=4.6km）を行うものである。現在、大字北小谷字マムシ岩から字光明間の開通に向けて事業を実施中である。

【広域位置図】 ※人口はH25年6月30日現在
(資料:小谷村地区別人口より)

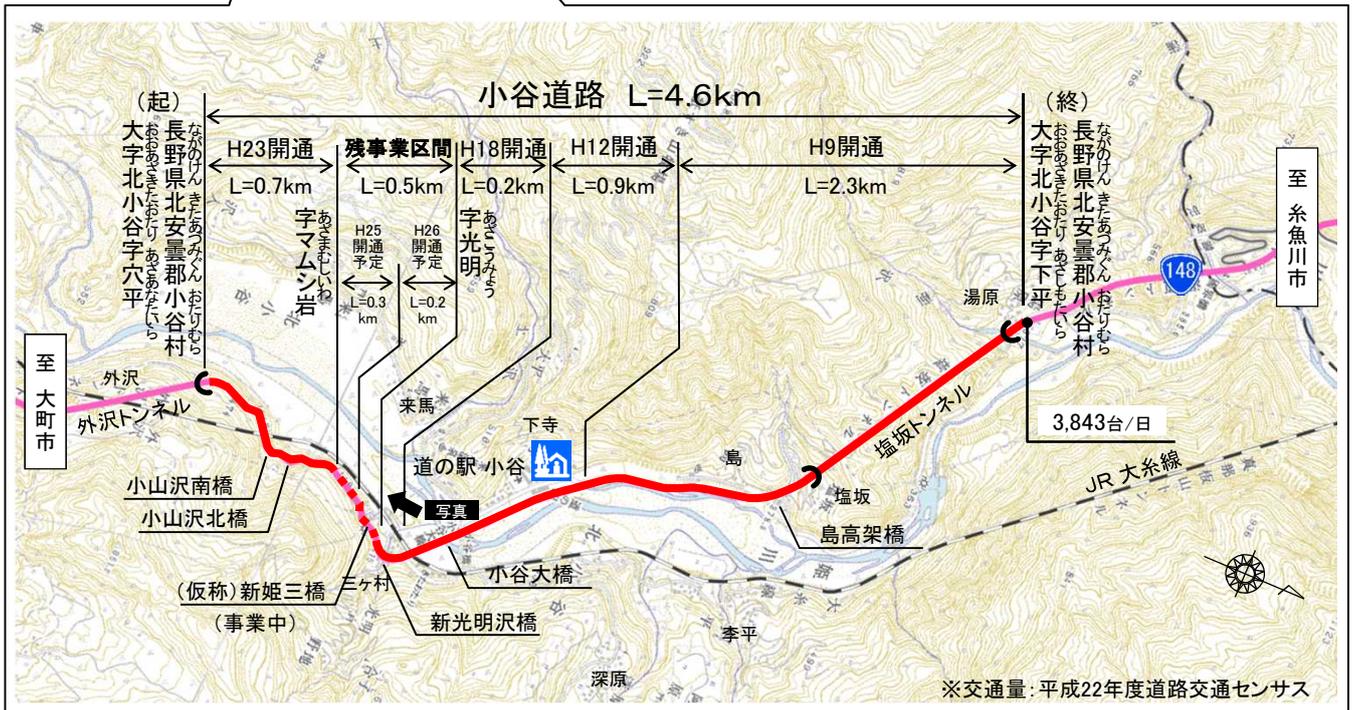


【現況写真】

糸魚川市側から大町市方向を望む



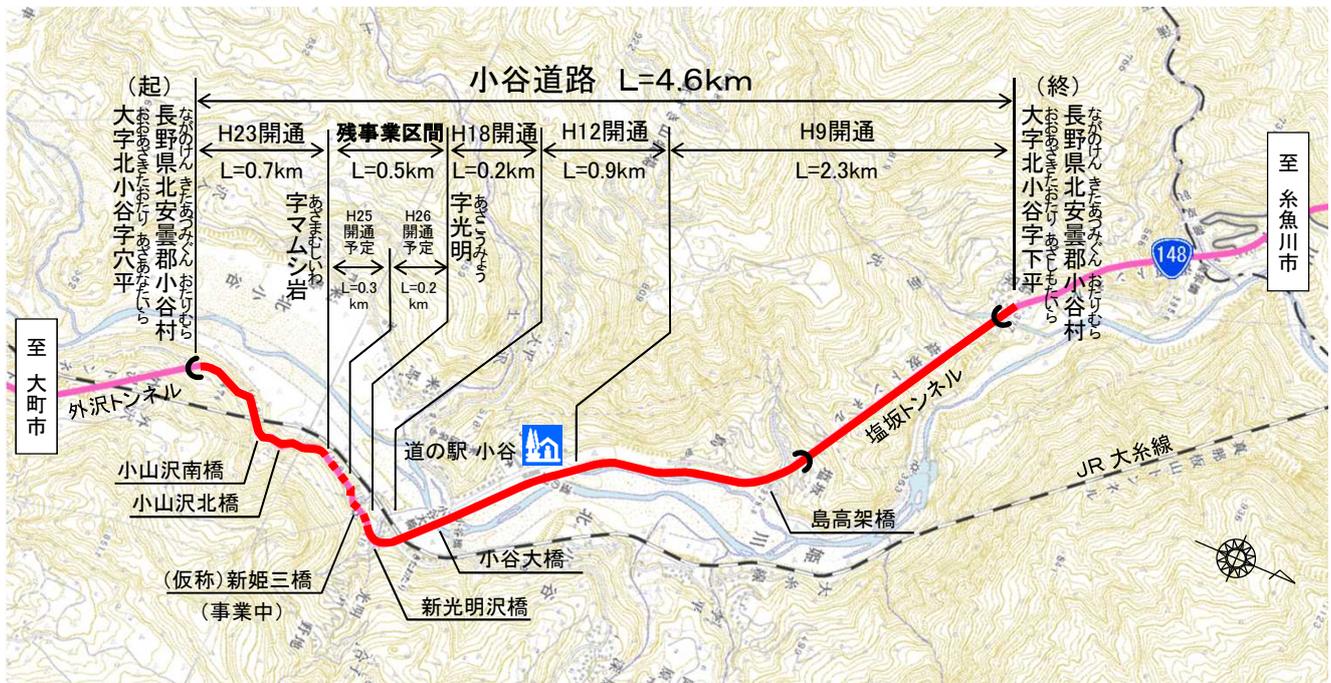
※H25年9月撮影



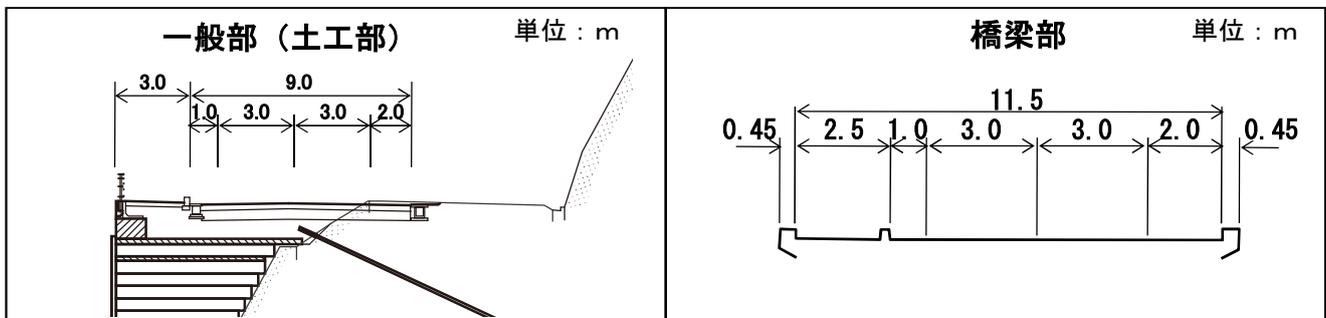
2) 事業の概要

- 事業名：国道148号 小谷道路
- 延長：4.6 km
- 起終点：(起)長野県北安曇郡小谷村大字北小谷字六平
きたあずみぐん おたりむら おおあざ きたおたり あざあなたいら
 (終)長野県北安曇郡小谷村大字北小谷字下平
きたあずみぐん おたりむら おおあざ きたおたり あざしもたいら
- ルート承認：昭和61年度
- 事業化：昭和63年度
- 用地着手：平成元年度
- 工事着手：平成元年度
- 全体事業費：253億円
- 平成25年度までの投資額(予定)：243億円(進捗率96%)

【路線図】



【標準横断図】



2. 現在に至る経緯等

1) 事業の経緯

年度	主な経緯
昭和63年度	事業化
平成元年度	用地着手・工事着手
平成5年度	関東地方建設局長野国道工事事務所から北陸地方建設局高田工事事務所にL=4.6kmを引き継ぎ
平成9年度～平成18年度	光明～下平 開通 L=3.4km
平成23年度	穴平～マムシ岩 開通 L=0.7km
平成14年度、19年度 21年度、22年度	事業再評価(指摘事項なし、継続)

2) 事業の進捗状況

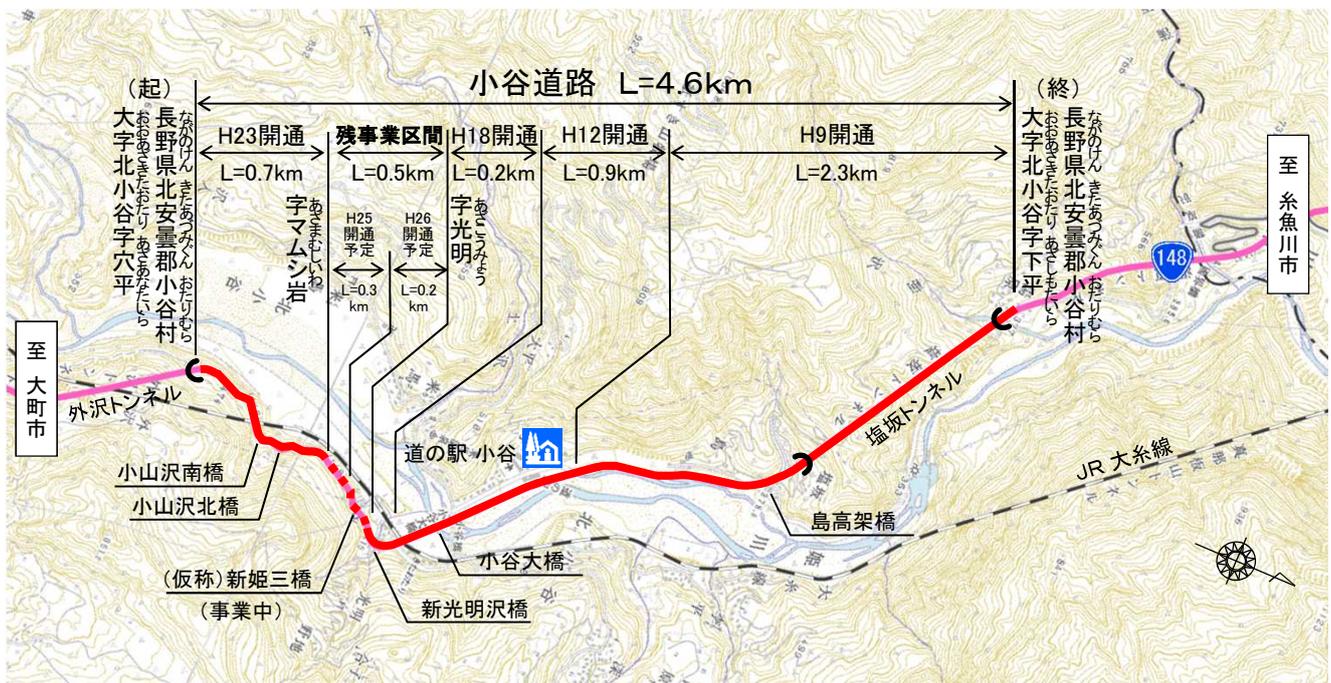
平成25年度末(予定)

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	253億円	243億円	96%	10億円
うち用地費・補償費	2.9億円	2.9億円	100%	0億円

※金額は税込

3) 今後の事業展開

- 北小谷字マムシ岩地先 (L=0.3km) は、舗装工事を完成し、平成25年度に同区間の開通を図る。
- 北小谷字マムシ岩～字光明間 (L=0.2km) については、平成26年度の開通を目指し、改良工事及び、(仮称)新姫三橋 (L=93m) の上下部工事を推進する。



3. 当該道路の役割・効果

<3便益に係る整備効果>

① 走行時間の短縮(6ページ)

- 小谷道路の整備により、安全・円滑な走行環境が確保され、走行時間が約7分短縮する。
- 小谷道路の整備により、走行時間の短縮による便益が年間5億円発生する。
- 供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると274億円と算出される。

【走行時間短縮便益】

$$\begin{aligned} &= \text{整備前総走行時間費用} - \text{整備後総走行時間費用} \\ &= 5 \text{ (億円/年)} \times \text{※供用開始年次の便益} \\ &\quad \text{総走行時間費用} = \sum \sum [\text{路線別車種別交通量 (台/日)} \times \text{路線別走行時間 (分)} \\ &\quad \quad \quad \times \text{車種別時間価値原単位 (円/台・分)}] \times 365 \text{ (日/年)} \end{aligned}$$

割引率等を考慮

274億円(残事業では15億円)

② 走行経費の減少(6ページ)

- 小谷道路の整備により、走行経費減少として年間1億円の便益が発生する。
- 供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると44億円と算出される。

【走行経費減少便益】

$$\begin{aligned} &= \text{整備前総走行経費} - \text{整備後総走行経費} \\ &= 1 \text{ (億円/年)} \times \text{※供用開始年次の便益} \\ &\quad \text{総走行経費} = \sum \sum [\text{路線別車種別交通量 (台/日)} \times \text{路線別延長 (km)} \\ &\quad \quad \quad \times \text{車種別走行経費原単位 (円/台・km)}] \times 365 \text{ (日/年)} \end{aligned}$$

割引率等を考慮

44億円(残事業では3億円)

③ 交通事故の減少(7ページ)

- 小谷道路の整備により安全な走行環境が確保され、事業区間において年間約0.6件の交通事故削減が期待される。
- 小谷道路の整備による事故件数減少により、年間0.03億円の便益が発生する。
- 供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると2億円と算出される。

【交通事故減少便益】

$$\begin{aligned} &= \text{整備前の交通事故による社会的損失} - \text{整備後の交通事故による社会的損失} \\ &= 0.03 \text{ (億円/年)} \times \text{※供用開始年次の便益} \\ &\quad \text{交通事故による社会的損失} = \\ &\quad \quad \quad \sum \sum [\text{路線別平均事故件数 (件/年)} \times \text{人身事故1件当たり損失額 (円/件)}] \end{aligned}$$

割引率等を考慮

2億円(残事業では0億円)

<防災面を含む多様な効果>

① 幅員狭小・線形不良箇所の解消(8ページ)

- 小谷道路の旧道区間には、道路幅員5.5m未満の未改良区間や、トンネル、洞門、橋梁部など1車線区間などの隘路区間や、道路構造令の基準値を満たしていない線形不良箇所が存在していた。
- 小谷道路の全線整備により、幅員狭小・線形不良箇所が解消され、安全かつ円滑な地域住民の生活交通の確保が期待できる。

② 局所的な防災上の課題の解消(9ページ)

- 当該地域は急峻で脆い地形・地質により、過去に豪雨等による大規模災害が発生しており、地域の日常生活に多大な影響を及ぼした。
- 小谷道路の全線整備により、大規模災害時においても地域住民の生活交通など、当該区間を通行する交通の安全確保が期待できる。

③ 冬期交通障害の解消(10ページ)

- 当該区間は、冬期の大型車等によるスリップや登坂不能が多発し、年平均7.6回(26.3時間)の交通障害が発生している。
- H23年12月には、急勾配区間などの線形不良箇所が特に多かった区間が開通したため、冬期交通障害が大幅に減少しており、小谷道路の全線整備により、冬期交通障害の更なる減少が期待でき、冬期間においても信頼性の高い交通確保が期待される。

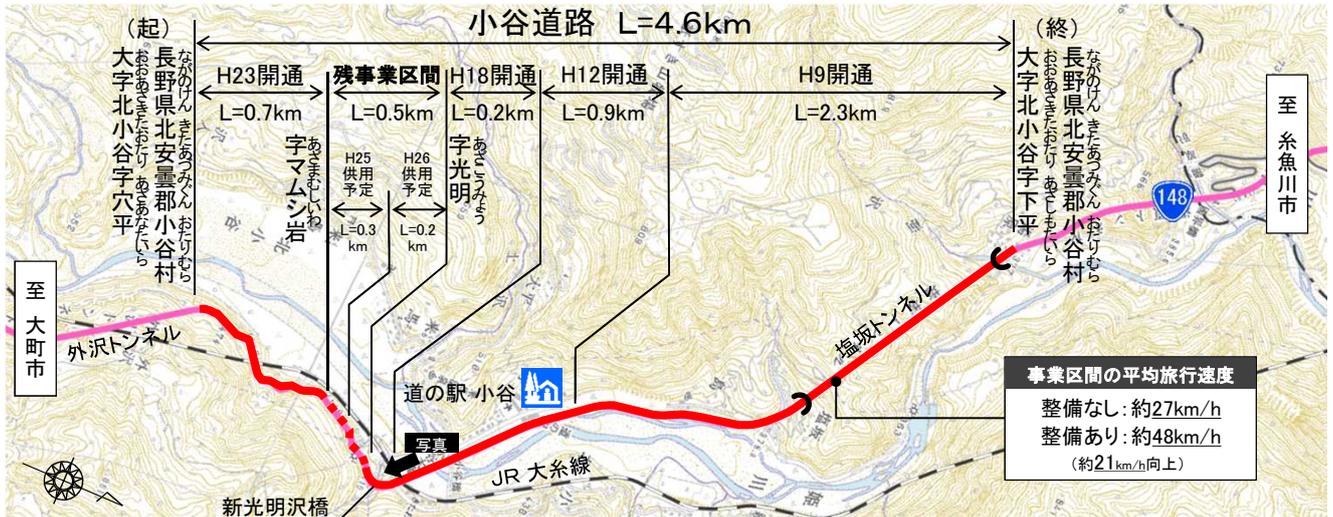
④ 救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上(11ページ)

- 当該道路は、北小谷地区から第2次医療施設である大町総合病院への唯一のアクセス路となっており、他に代替路がない。
- 小谷道路の全線整備により、大町総合病院へのアクセス性向上や、救急車利用時における現場到着までの所要時間短縮など、救命率の向上に寄与することが期待される。

1) 3便益に係る整備効果

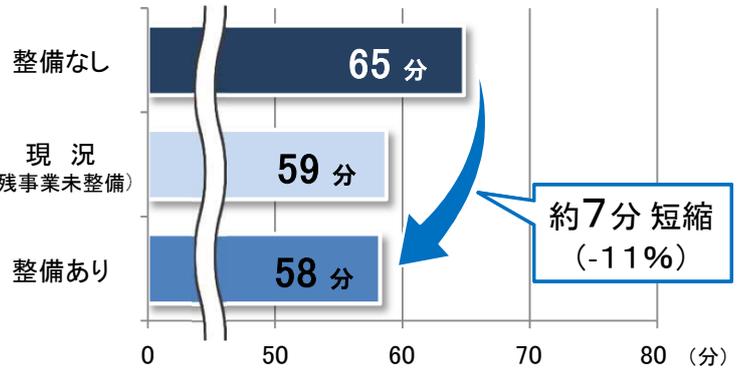
① 走行時間の短縮

○ 小谷道路の全線整備により、円滑な走行環境が確保され、走行時間は約7分短縮される。



※平均旅行速度はH42将来交通量推計に基づく推計値

【小谷村役場 ~ 糸魚川市役所間の所要時間】



※事業区間: H42将来交通量推計に基づく推計値
その他: H22年度道路交通センサス

【線形改良による走行環境の改善】新光明沢橋の整備

小谷村北小谷光明沢地先では、線形不良等により、大型車のすれ違い等が困難な箇所が存在していたが、H18年11月の新光明沢橋を含む区間 (L=0.2km) の開通により、円滑な走行環境を確保している。



②交通事故件数の減少

- 代替路の乏しい当該事業区間においては、交通事故が発生した場合、警察車両などの事故処理にも大きな影響を受ける。
- 小谷道路の全線整備により、より安全な走行環境が確保され、事業区間において、年間約0.6件の死傷事故削減が期待される。

【事業区間の死傷事故削減件数】

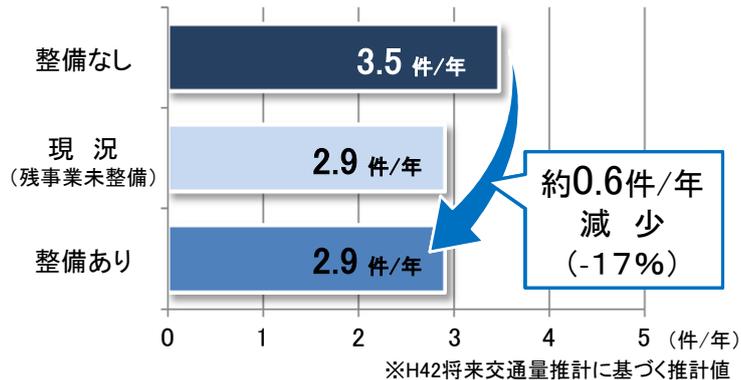
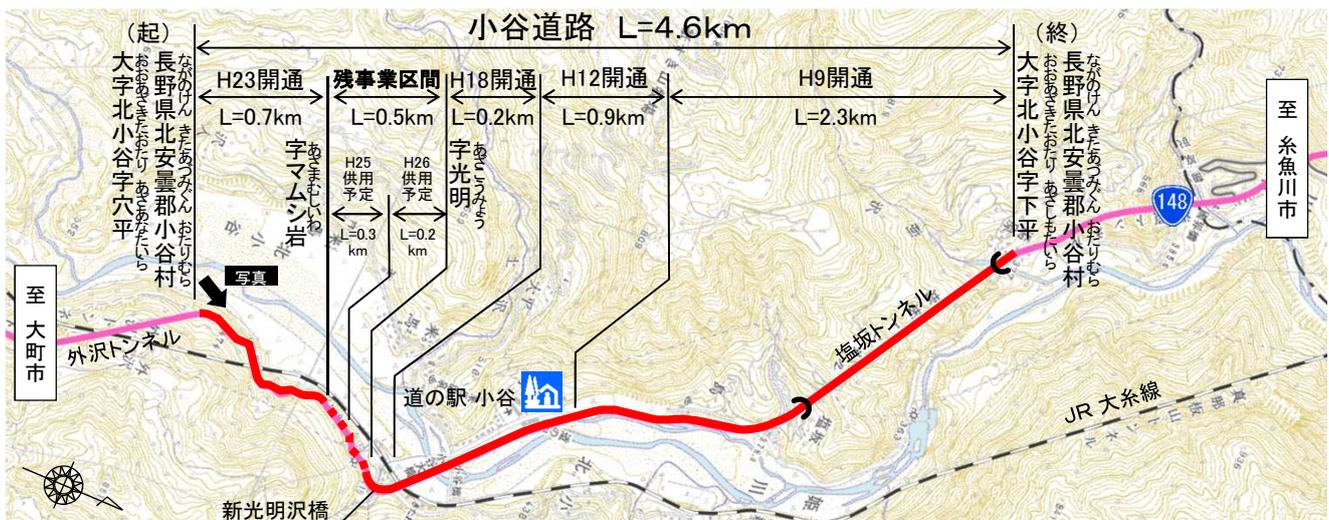
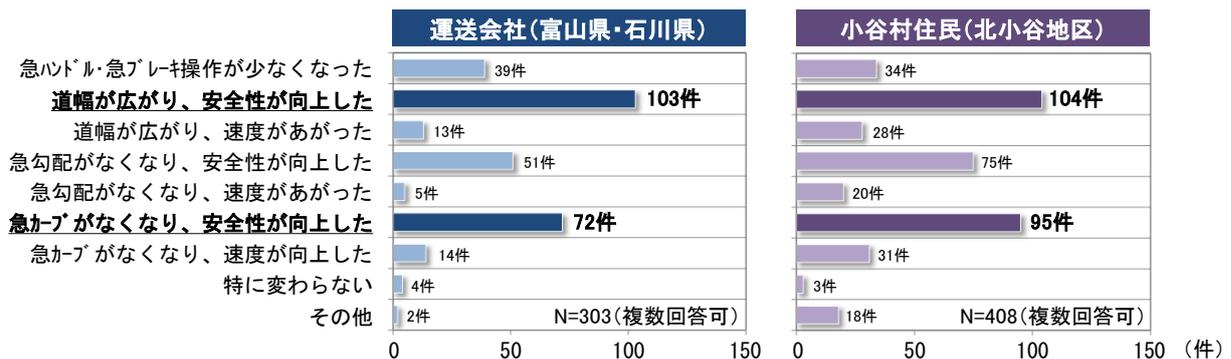


写真. 交通障害を受ける警察車両



【H23年開通区間 (L=0.7km) に対する評価 (道路利用者アンケート)】

H23年の開通区間 (L=0.7km) においては、幅員狭小や線形不良区間が改良したことにより、道路利用者は主に安全性の向上について高く評価している。



出典：一般国道148号小谷道路平成23年12月10日供用の0.7km区間に係るアンケート調査(H24年3月)

2) 防災面を含む多様な効果

①幅員狭小・線形不良箇所の解消

- 小谷道路の旧道区間には、道路幅員5.5m未満の未改良区間や、トンネル、洞門、橋梁部など1車線区間などの隘路区間や、道路構造令の基準値を満たしていない線形不良箇所が存在していた。
- 小谷道路の全線整備により、幅員狭小・線形不良箇所が解消され、安全かつ円滑な地域住民の生活交通の確保が期待できる。

【旧道区間の幅員状況】



写真①: すれ違い困難な橋梁部



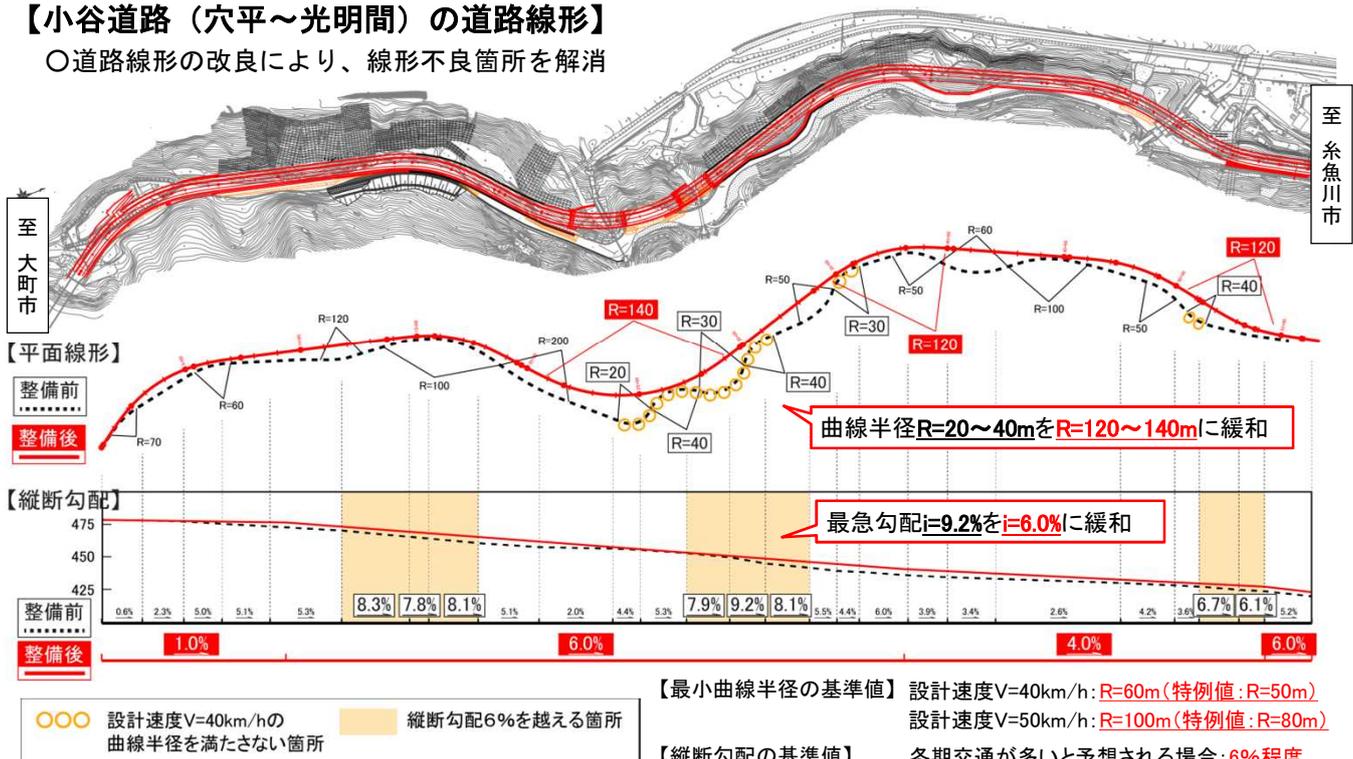
写真②: 幅員狭小なJR交差部



写真③: 幅員狭小な洞門区間

【小谷道路（穴平～光明間）の道路線形】

○道路線形の改良により、線形不良箇所を解消

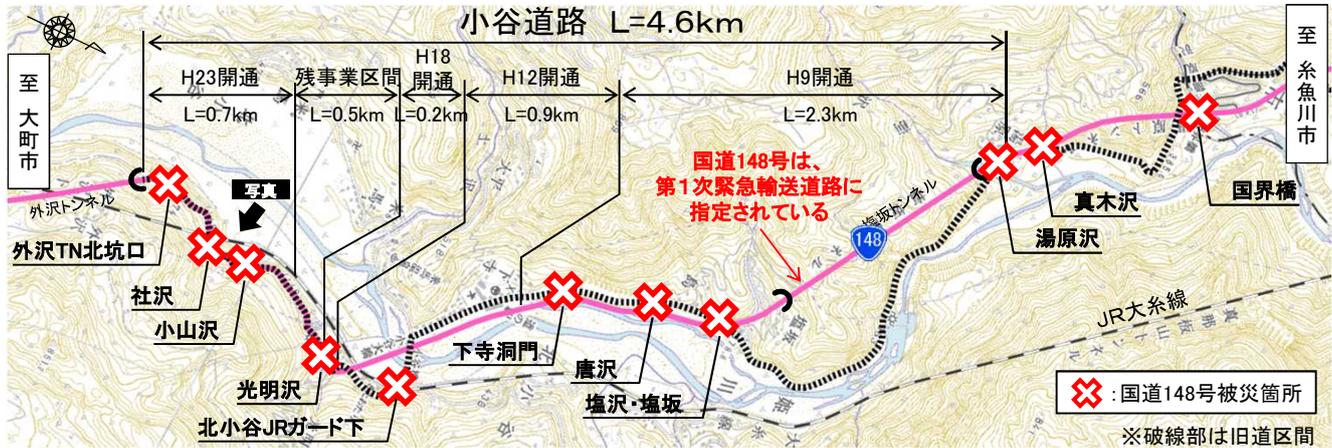


②局所的な防災上の課題の解消

- 当該地域は急峻で脆い地形・地質により、過去に豪雨等による大規模災害が発生しており、地域の日常生活に多大な影響を及ぼした。
- 小谷道路の全線整備により、大規模災害時においても地域住民の生活交通など、当該区間を通行する交通の安全確保が期待できる。

【平成7年7月 梅雨前線豪雨災害の被災状況】

※緊急輸送道路の出自：長野県地域防災計画



月日	時間	規制区間	規制内容	規制理由
7月11日	17:50	小谷村中土～県境	全面通行止	事前規制
	19:15	白馬村新田～小谷村中土	全面通行止	事前規制
7月15日	16:00	白馬村新田～小谷村下寺	緊急車両通行可	
7月17日	13:00	白馬村新田～小谷村川尻	全面通行止 解除	大町市～小谷村川尻まで通行可能となる
8月3日	6:00	小谷村川尻～小谷村下寺	全面通行止 解除	大町市～小谷村下寺まで通行可能となる
8月6日	6:00	小谷村下寺～県境	夜間通行止	大町市～県境まで昼間通行可能となる(仮橋、仮道使用)
9月16日	10:00	小谷村 新国界橋仮道	全面通行止	小谷村 新国界橋仮道(大雨による)
9月17日	14:30	小谷村 新国界橋仮道	夜間通行止	夜間通行止継続
9月28日	13:00	旧国界橋	解除	大町市～県境 全面通行可能

約80日間通行止め

地域住民の生活交通に多大なる影響を及ぼした

【沢部橋梁構造による土石流被災の回避】



写真：整備前(H7年7月豪雨災害の被災状況)



写真：整備後(H23年12月開通区間)

【JR大系線の代替輸送路線を担う小谷道路】

○JR大系線は、これまでに大雪等の災害により列車の運休が発生しており、近年では、H25年6月19日に発生した姫川護岸の崖崩れにより、6月20日から8月15日の復旧まで南小谷-糸魚川駅間の列車が運休し、バス代替輸送が行われた。

○小谷道路の全線整備により、JR大系線の運休時におけるバス代替輸送路としての信頼性向上が期待できる。



写真：JR大系線代行バス



③冬期交通障害の解消

- 当該区間は、冬期の大型車等によるスリップや登坂不能が多発し、年平均7.6回（26.3時間）の交通障害が発生している。
- H23年12月には、急勾配区間などの線形不良箇所が特に多かった区間が開通したため、冬期交通障害が大幅に減少しており、小谷道路の全線整備により、冬期交通障害の更なる減少が期待でき、冬期間においても信頼性の高い交通確保が期待される。



写真①: 降雪による大型車のスリップや登坂不能



写真②: 冬期の交通障害により発生する渋滞

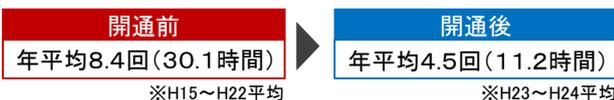


【事業区間内の冬期交通障害発生状況】



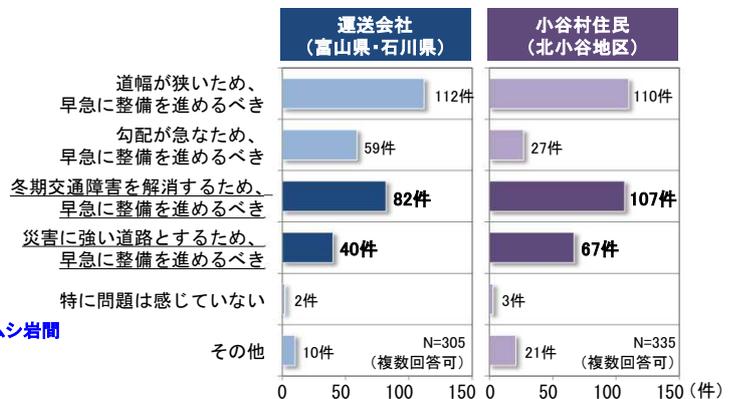
過去10年間の平均
 冬期の交通障害 年平均7.6回(26.3時間)

○H23年12月の開通による冬期交通障害の減少



⇒ 交通障害が大幅に減少

【残事業区間に関する道路利用者の意見】



小谷村住民の声

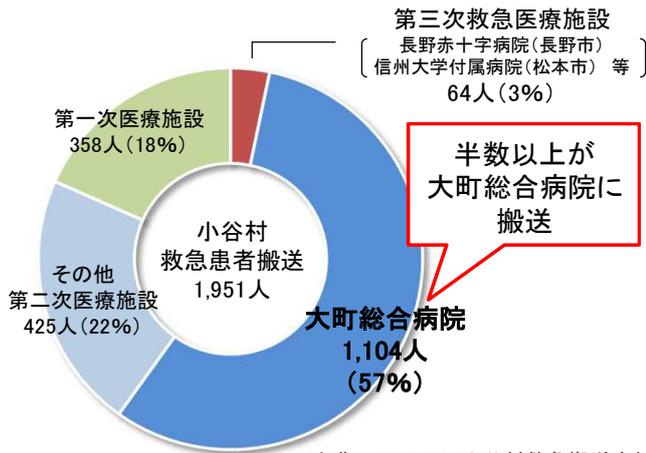
雪が大変多く勾配が急のため事故が大変多い区間です。冬の時期は通行止めが多く唯一の道路につき災害に強い道路とすることを望みます。

出典: 一般国道148号小谷道路平成23年12月10日供用の0.7km区間に係るアンケート調査 (H24年3月)

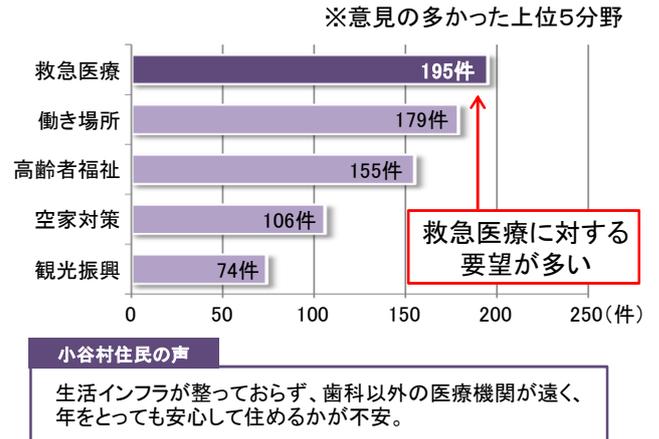
④救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上

- 当該道路は、北小谷地区から第2次医療施設である大町総合病院への唯一のアクセス路となっており、他に代替路がない。
- 小谷道路の全線整備により、大町総合病院へのアクセス性向上や、救急車利用時における現場到着までの所要時間短縮など、救命率の向上に寄与することが期待される。

【小谷村の救急患者搬送先】



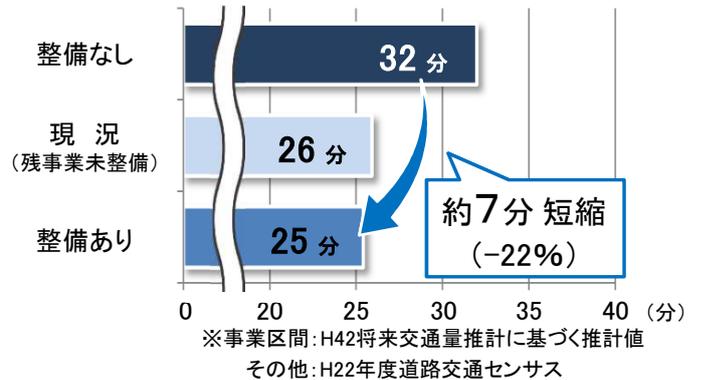
【小谷村住民が整備の必要を求める分野】



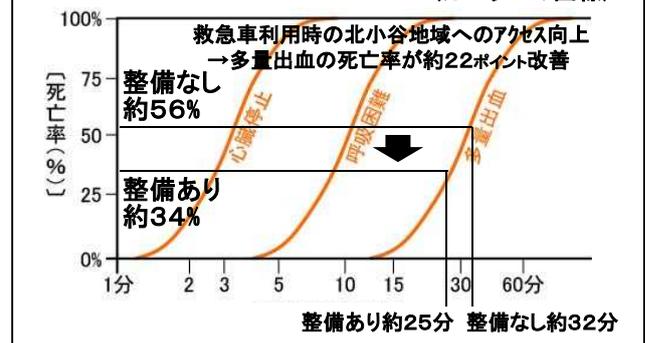
【北小谷地域から医療施設へのアクセスルート】



北アルプス広域北部消防署-北小谷地区の所要時間



【救急時における時間経過と死亡率(救命率)】 (カーラーの曲線)



4. 費用と効果

・基準年における費用及び便益の現在価値

現在価値算出のための割引率: 4%

基準年次: 平成25年度

検討年数: 50年

・将来道路網: 現在の一般県道以上の道路網を基本に、平成25年6月時点で事業化済みの計画路線を対象にした道路網である。

<費用>

基準年における現在価値		事業費	維持管理費
事業全体	351億円	347億円	4億円
残事業	9億円	9億円	0億円

<3 便益>

基準年における現在価値		走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益
事業全体	319億円	274億円	44億円	2億円
残事業	18億円	15億円	3億円	0億円

注1) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注2) 費用及び便益額は整数止めとする。

注3) 費用及び便益額の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

注4) 便益の算定については、「将来交通需要推計手法の改善について【中間とりまとめ】」に示された第二段階の改善を反映している。

<防災面を含む多様な効果>

小谷道路の役割	具体的内容
①幅員狭小、線形不良箇所 の解消	◆小谷道路の全線整備により、幅員狭小・線形不良箇所が解消され、安全かつ円滑な地域住民の生活交通の確保が期待できる。
②局所的な防災上の課題 の解消	◆小谷道路の全線整備により、大規模災害時においても地域住民の生活交通など、当該区間を通行する交通の安全確保が期待できる。
③冬期交通障害の解消	◆小谷道路の全線整備により、冬期交通障害の更なる減少が期待でき、冬期間においても信頼性の高い交通確保が期待される。
④救急医療施設への「命の道」 としてのアクセス向上	◆小谷道路の全線整備により、大町総合病院へのアクセス性向上や、救急車利用時における現場到着までの所要時間短縮など、救命率の向上に寄与することが期待される。

5. 防災技術の専門家による委員会の審議結果

1. 国道148号小谷道路防災効果検討委員会

○目的

本検討委員会は、国道148号小谷道路について、防災面で見た事業の必要性、緊急性、対策内容の技術的妥当性を確認するものである。

○委員

大川 秀雄	新潟大学 教授（工博）	専門：地盤工学
大塚 悟	長岡技術科学大学 教授（工博）	専門：地盤工学
丸山 久一	長岡技術科学大学 教授（工博）	専門：コンクリート工学 （※五十音順）

○開催日

平成25年9月27日 場所：長岡国道事務所

2. 必要性・緊急性に係る検討結果

○ 当該区間は、フォッサマグナの西縁に位置し、急峻で脆弱な地形・地質となっており、山腹斜面は中生代の来馬層群を覆って崩積土層（未固結堆積物）が分布していること、また地質構造が複雑で岩盤の割れ目が多く地下水が浸透し風化が進んでいることから土砂災害を受けやすく、早急に対応が必要である。

3. 対策内容の技術的妥当性に係る検討結果

○ 光明～下平間（延長3.4km）は、急峻な地形の姫川沿いに位置し、既存のトンネルや洞門が狭隘のため現道拡幅が困難であることから、トンネル、橋梁を主体の新設ルートで計画し、災害を受けやすい斜面を避けていることから防災上妥当である。

○ 穴平～光明間（延長1.2km）は、地形・地盤条件から谷側へ拡幅する計画で、限られたスペースで構築可能な軽量盛土（EPS、耐震性確認）で計画しており、崩れやすい山側の大規模な斜面对策を避けていることから防災面から見て技術的に妥当である。

4. 委員会の結論

○ 小谷道路の防災面で見た事業の必要性、緊急性を確認した。

○ 小谷道路の対策内容は、技術的に妥当である。

6. 対応方針（原案）

①事業の必要性に関する視点

- ・ 国道148号は長野県大町市と新潟県糸魚川市を結ぶ重要な幹線道路であるが小谷道路の事業区間は、幅員狭小や線形不良箇所が存在により、円滑な走行環境が阻害されており、急峻で脆い地形・地質により局所的な防災上の課題を有しているほか、冬期降雪の影響による大型車のスリップ事故や登坂不能に伴う交通障害が発生しており、円滑な走行環境及び信頼性の高い交通の確保が必要である。
- ・ 小谷道路は、地域住民の生活道路としての役割を担う道路であり、幅員狭小・線形不良箇所の解消、局所的な防災上の課題の解消、冬期交通障害の解消、救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上など、期待される効果は大きい。

②事業進捗の見込みの視点

- ・ 小谷道路は4.1km区間が開通されている。また、長野県小谷村、白馬村、大町市及び新潟県糸魚川市から、事業促進の要望を頂いている。
- ・ 北小谷字マムシ岩地先（L=0.3km）は、舗装工事を完成し、平成25年度に同区間の開通を図る。
- ・ 北小谷字マムシ岩～字光明間（L=0.2km）については、平成26年度の開通を目指し、改良工事及び(仮称)新姫三橋（L=93m）上下部工事を推進する。

③コスト縮減からの観点

- ・ (仮称)新姫三橋における上部工架設工法の工夫により、コスト縮減を図っている。

④対応方針（原案）

対応方針（原案）

事業継続

（理由）

- ・ 国道148号は長野県大町市を起点とし、新潟県糸魚川市に至る幹線道路であり、地域住民の生活道路として重要な役割を担っている。
- ・ 国道148号小谷道路の整備により、「幅員狭小・線形不良箇所の解消」、「局所的な防災上の課題の解消」による地域住民の安全かつ円滑な生活交通の確保、「冬期交通障害の解消」による冬期間における信頼性の高い交通の確保、「救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上」による救命率の向上など期待される効果は大きい。
- ・ 防災技術の専門家による委員会の審議の結果、当該事業における必要性や技術的妥当性が確認されている。

參考資料

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道148号	小谷道路	L = 4.6 Km	一次改築	BP・現拡

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
4,900	2	北陸地方整備局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成25年度		
単純合計	243億円	5.9億円	249億円
うち残事業分	9.4億円	0.50億円	10億円
基準年における 現在価値 (C)	347億円	4.2億円	351億円
うち残事業分	9.0億円	0.17億円	9.2億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成25年度			
供用年	平成10年度、平成13年度、平成19年度、平成24年度、平成26年度、 平成27年度			
単年便益 (初年便益)	4.9億円	0.83億円	0.03億円	5.8億円
基準年における 現在価値 (B)	274億円	44億円	1.9億円	319億円
うち残事業分	15億円	2.6億円	0.00億円	18億円

交通状況の変化（全体）

様式－3①

事業名：一般国道148号 小谷道路

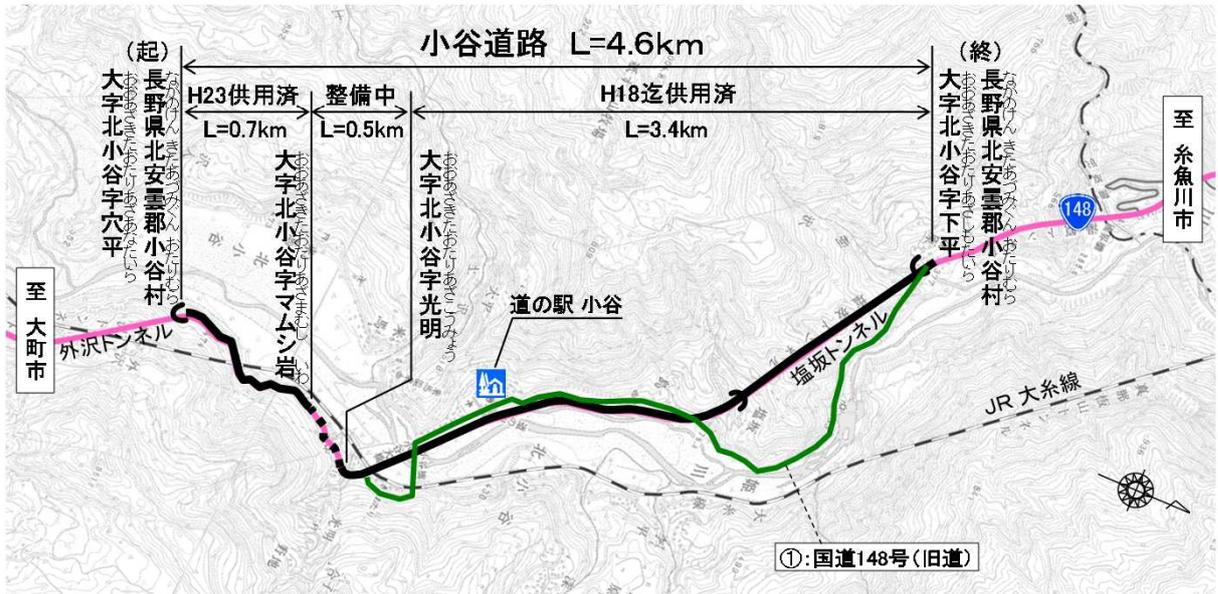
（推計時点 H42年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路:4.6km	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	4,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0	6.2	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	6.56	
②主な周辺道路 ^{※4}	①現道（国道148号）:5.5km	交通量	[台/日]	4,900	0
		走行時間	[分]	13.2	0.0
		走行時間費用	[億円/年]	14.02	0.00
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
	交通量	[台/日]			
	走行時間	[分]			
	走行時間費用	[億円/年]			
③その他道路合計	走行時間費用	[億円/年]			

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：4.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	14.02	6.56	7.46

- ※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。
- ※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。
- ※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。
- ※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。
- ※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



交通状況の変化（残事業）

様式-3①

事業名：一般国道148号 小谷道路

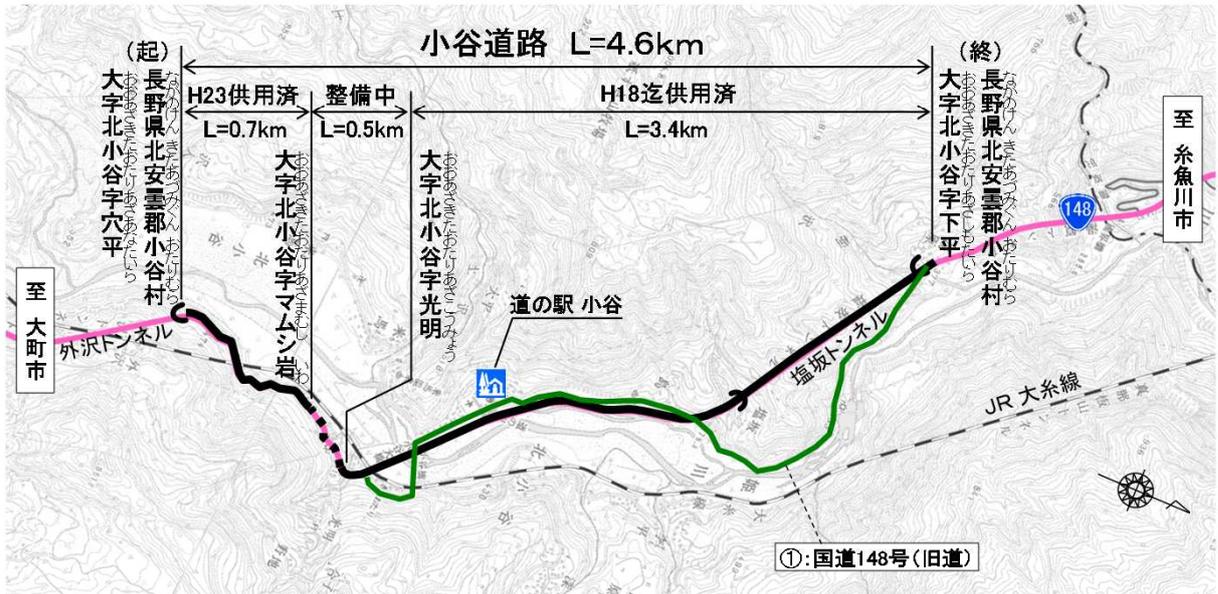
（推計時点 H42年）

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路:4.6km	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	4,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0	6.2	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	6.56	
②主な周辺道路 ^{※4}	①現道（国道148号）:5.5km	交通量	[台/日]	4,900	0
		走行時間	[分]	6.8	0.0
		走行時間費用	[億円/年]	7.21	0.00
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
		交通量	[台/日]		
		走行時間	[分]		
		走行時間費用	[億円/年]		
③その他道路合計	走行時間費用	[億円/年]			

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：4.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	7.21	6.56	0.65

- ※1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。
- ※2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。
- ※3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。
- ※4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。
- ※5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



費用便益分析の条件

事業名：小谷道路

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他	<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成25年度	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	<input type="checkbox"/>
		複数時点での推計	<input checked="" type="checkbox"/> (H17・H42)
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	<input checked="" type="checkbox"/>
		整備の有無のいずれかのみ推計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ の推計とした理由を記載
	推計に用いた OD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	<input checked="" type="checkbox"/> (H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	<input type="checkbox"/>
		その他()	<input type="checkbox"/>
	開発交通量の 考慮	無	<input checked="" type="checkbox"/>
		有	<input type="checkbox"/>
有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載 ()台トリップ/日	
配分交通量の 推計手法	Q-V式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分	<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分	<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法	<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の 採択理由	小規模事業である	<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない	<input type="checkbox"/>
	その他()		
	簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)		
速度設定の 考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け して設定 採用理由を記載	<input type="checkbox"/>	
	最終配分の速度 採用理由を記載	<input type="checkbox"/>	
	その他(QV条件式より平均速度を算出)	<input checked="" type="checkbox"/>	

(3)

項目		チェック欄		
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する	<input type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>
			採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	() %
	災害等による通行止めの影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載 過去10年間の実績を考慮	(1.1) 日
			とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載	<input type="checkbox"/>
	冬期交通の影響	考慮しない	<input type="checkbox"/>	
		考慮する	<input checked="" type="checkbox"/>	
		考慮する場合のみ	採用した冬期日数(年あたり) 採用した冬期日数の考え方を記載	(133) 日
			降雪が最初に観測された日から最後に観測された日までの冬期日数(133日)及び降雪日数(96日)を考慮	
			冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載 通常期と冬期の速度比(降雪時19%低下、降雪時以外10%低下)を考慮	
	交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
その他 ()		<input type="checkbox"/>		
車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用 算出根拠を添付すること	<input type="checkbox"/>		
車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
	独自に設定した値を使用 算出根拠を添付すること	<input type="checkbox"/>		
交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input type="checkbox"/>		
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
	考慮する (考慮の場合、算出根拠を添付すること)	<input type="checkbox"/>		
その他				

事業名：小谷道路

(4)

		項目	チェック欄
費用 の 算 定	事業費	詳細事業計画による値を採用	<input checked="" type="checkbox"/>
		標準投資パターンを採用	<input type="checkbox"/>
		その他(概略事業計画による値を採用)	<input type="checkbox"/>
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 長野県管理路線の実績値から設定	
	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	<input checked="" type="checkbox"/>
	その他		
4. その他			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			
.....			

費用の現在価値算定表(全体)

					維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)		
箇所名: 一般国道148号 小谷道路					単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
					0.030	4.6	0.14
年次	年度	割引率 4.0%	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-5年目	H 5	2.1911	110.9	6.81	12.39		
-4年目	H 6	2.1068	110.8	9.62	16.85		
-3年目	H 7	2.0258	109.9	36.22	61.49		
-2年目	H 8	1.9479	109.5	43.70	71.60		
-1年目	H 9	1.8730	110.4	26.97	42.14		
供用開始年次	H 10	1.8009	109.9	13.75	20.75	0.07	0.11
1年目	H 11	1.7317	108.4	9.53	14.02	0.07	0.10
2年目	H 12	1.6651	107.2	6.29	9.00	0.07	0.10
3年目	H 13	1.6010	105.7	0.19	0.27	0.09	0.13
4年目	H 14	1.5395	103.8	0.48	0.66	0.09	0.12
5年目	H 15	1.4802	102.3	0.48	0.64	0.09	0.12
6年目	H 16	1.4233	101.0	2.38	3.09	0.09	0.12
7年目	H 17	1.3686	99.6	2.10	2.66	0.09	0.11
8年目	H 18	1.3159	98.7	2.86	3.51	0.09	0.11
9年目	H 19	1.2653	97.6	7.24	8.64	0.10	0.12
10年目	H 20	1.2167	96.8	12.33	14.27	0.10	0.12
11年目	H 21	1.1699	95.6	10.80	12.17	0.10	0.11
12年目	H 22	1.1249	93.7	12.38	13.69	0.10	0.11
13年目	H 23	1.0816	92.1	15.95	17.25	0.10	0.11
14年目	H 24	1.0400	92.1	9.52	9.90	0.12	0.12
15年目	H 25	1.0000	92.1	3.90	3.90	0.12	0.12
16年目	H 26	0.9615	92.1	9.40	9.04	0.13	0.12
17年目	H 27	0.9246	92.1			0.13	0.12
18年目	H 28	0.8890	92.1			0.13	0.12
19年目	H 29	0.8548	92.1			0.13	0.11
20年目	H 30	0.8219	92.1			0.13	0.11
21年目	H 31	0.7903	92.1			0.13	0.10
22年目	H 32	0.7599	92.1			0.13	0.10
23年目	H 33	0.7307	92.1			0.13	0.09
24年目	H 34	0.7026	92.1			0.13	0.09
25年目	H 35	0.6756	92.1			0.13	0.09
26年目	H 36	0.6496	92.1			0.13	0.08
27年目	H 37	0.6246	92.1			0.13	0.08
28年目	H 38	0.6006	92.1			0.13	0.08
29年目	H 39	0.5775	92.1			0.13	0.08
30年目	H 40	0.5553	92.1			0.13	0.07
31年目	H 41	0.5339	92.1			0.13	0.07
32年目	H 42	0.5134	92.1			0.13	0.07
33年目	H 43	0.4936	92.1			0.13	0.06
34年目	H 44	0.4746	92.1			0.13	0.06
35年目	H 45	0.4564	92.1			0.13	0.06
36年目	H 46	0.4388	92.1			0.13	0.06
37年目	H 47	0.4220	92.1			0.13	0.05
38年目	H 48	0.4057	92.1			0.13	0.05
39年目	H 49	0.3901	92.1			0.13	0.05
40年目	H 50	0.3751	92.1			0.13	0.05
41年目	H 51	0.3607	92.1			0.13	0.05
42年目	H 52	0.3468	92.1			0.13	0.05
43年目	H 53	0.3335	92.1			0.13	0.04
44年目	H 54	0.3207	92.1			0.13	0.04
45年目	H 55	0.3083	92.1			0.13	0.04
46年目	H 56	0.2965	92.1			0.13	0.04
47年目	H 57	0.2851	92.1			0.13	0.04
48年目	H 58	0.2741	92.1			0.13	0.04
49年目	H 59	0.2636	92.1	-2.65	-0.70	0.13	0.03
合計				240.25	347.23	5.91	4.22
単純事業費計				242.90		5.91	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表(残事業)

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名:一般国道148号 小谷道路

年次	年度	割引率 4.0%	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-1年目	H 25	1.0000	92.1	0.00	0.00		
供用開始年次	H 26	0.9615	92.1	9.40	9.04	0.01	0.01
1年目	H 27	0.9246	92.1			0.01	0.01
2年目	H 28	0.8890	92.1			0.01	0.01
3年目	H 29	0.8548	92.1			0.01	0.01
4年目	H 30	0.8219	92.1			0.01	0.01
5年目	H 31	0.7903	92.1			0.01	0.01
6年目	H 32	0.7599	92.1			0.01	0.01
7年目	H 33	0.7307	92.1			0.01	0.01
8年目	H 34	0.7026	92.1			0.01	0.01
9年目	H 35	0.6756	92.1			0.01	0.01
10年目	H 36	0.6496	92.1			0.01	0.01
11年目	H 37	0.6246	92.1			0.01	0.01
12年目	H 38	0.6006	92.1			0.01	0.01
13年目	H 39	0.5775	92.1			0.01	0.01
14年目	H 40	0.5553	92.1			0.01	0.01
15年目	H 41	0.5339	92.1			0.01	0.01
16年目	H 42	0.5134	92.1			0.01	0.01
17年目	H 43	0.4936	92.1			0.01	0.00
18年目	H 44	0.4746	92.1			0.01	0.00
19年目	H 45	0.4564	92.1			0.01	0.00
20年目	H 46	0.4388	92.1			0.01	0.00
21年目	H 47	0.4220	92.1			0.01	0.00
22年目	H 48	0.4057	92.1			0.01	0.00
23年目	H 49	0.3901	92.1			0.01	0.00
24年目	H 50	0.3751	92.1			0.01	0.00
25年目	H 51	0.3607	92.1			0.01	0.00
26年目	H 52	0.3468	92.1			0.01	0.00
27年目	H 53	0.3335	92.1			0.01	0.00
28年目	H 54	0.3207	92.1			0.01	0.00
29年目	H 55	0.3083	92.1			0.01	0.00
30年目	H 56	0.2965	92.1			0.01	0.00
31年目	H 57	0.2851	92.1			0.01	0.00
32年目	H 58	0.2741	92.1			0.01	0.00
33年目	H 59	0.2636	92.1			0.01	0.00
34年目	H 60	0.2534	92.1			0.01	0.00
35年目	H 61	0.2437	92.1			0.01	0.00
36年目	H 62	0.2343	92.1			0.01	0.00
37年目	H 63	0.2253	92.1			0.01	0.00
38年目	H 64	0.2166	92.1			0.01	0.00
39年目	H 65	0.2083	92.1			0.01	0.00
40年目	H 66	0.2003	92.1			0.01	0.00
41年目	H 67	0.1926	92.1			0.01	0.00
42年目	H 68	0.1852	92.1			0.01	0.00
43年目	H 69	0.1780	92.1			0.01	0.00
44年目	H 70	0.1712	92.1			0.01	0.00
45年目	H 71	0.1646	92.1			0.01	0.00
46年目	H 72	0.1583	92.1			0.01	0.00
47年目	H 73	0.1522	92.1			0.01	0.00
48年目	H 74	0.1463	92.1			0.01	0.00
49年目	H 75	0.1407	92.1	0.00	0.00	0.01	0.00
合計				9.40	9.04	0.50	0.17
単純事業費計				9.40		0.50	

注1)事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

箇所名：一般国道148号 小谷道路

便益の現在価値算定表(残事業)

年次 (年度)	総走行台キロの年次別伸び率 (北陸700号)			GDP 率	割引率 (A)	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				合 計 (億円)		
	乗用車種	小型貨物	貨物車種 全 車			乗用車種	小型貨物	普通貨物	計	①×(A)	現在価値 (A)×(2)	③	現在価値 (3)×(A)	便益合計 (1)~(3)	割引率4%	
H25																
供用開始年次	H 26	0.99463	0.98212	0.97448	0.99033	0.9615	92.1	0.06	0.00	0.36	0.42	0.40	0.09	0.00	0.00	0.51
1年目	H 27	0.99460	0.98179	0.97381	0.99023	0.9246	92.1	0.11	0.03	0.76	0.89	0.82	0.16	0.00	0.00	1.04
2年目	H 28	0.99457	0.98145	0.97310	0.99014	0.8890	92.1	0.11	0.03	0.74	0.87	0.77	0.15	0.00	0.00	1.02
3年目	H 29	0.99454	0.98110	0.97236	0.99004	0.8548	92.1	0.11	0.02	0.71	0.85	0.72	0.15	0.00	0.00	0.99
4年目	H 30	0.99451	0.98074	0.97157	0.98994	0.8219	92.1	0.11	0.02	0.69	0.82	0.68	0.14	0.00	0.00	0.97
5年目	H 31	0.99448	0.98036	0.97074	0.98984	0.7903	92.1	0.10	0.02	0.67	0.80	0.63	0.14	0.00	0.00	0.94
6年目	H 32	0.99445	0.97997	0.96986	0.98973	0.7599	92.1	0.10	0.02	0.65	0.78	0.59	0.10	0.00	0.00	0.92
7年目	H 33	0.99588	0.98106	0.98285	0.99285	0.7307	92.1	0.10	0.02	0.64	0.77	0.56	0.10	0.00	0.00	0.90
8年目	H 34	0.99586	0.98563	0.98700	0.99280	0.7026	92.1	0.10	0.02	0.63	0.76	0.53	0.13	0.00	0.00	0.89
9年目	H 35	0.99585	0.98542	0.98032	0.99275	0.6756	92.1	0.10	0.02	0.62	0.74	0.50	0.13	0.00	0.00	0.87
10年目	H 36	0.99583	0.98520	0.97992	0.99270	0.6496	92.1	0.10	0.02	0.60	0.73	0.47	0.13	0.00	0.00	0.85
11年目	H 37	0.99581	0.98498	0.97951	0.99264	0.6246	92.1	0.10	0.02	0.59	0.72	0.45	0.12	0.00	0.00	0.84
12年目	H 38	0.99579	0.98475	0.97908	0.99259	0.6006	92.1	0.10	0.02	0.58	0.70	0.42	0.11	0.00	0.00	0.82
13年目	H 39	0.99578	0.98452	0.97864	0.99253	0.5775	92.1	0.10	0.02	0.57	0.69	0.40	0.12	0.00	0.00	0.81
14年目	H 40	0.99576	0.98427	0.97817	0.99248	0.5553	92.1	0.10	0.02	0.55	0.68	0.38	0.12	0.00	0.00	0.79
15年目	H 41	0.99574	0.98402	0.97768	0.99242	0.5339	92.1	0.10	0.02	0.54	0.66	0.35	0.11	0.00	0.00	0.78
16年目	H 42	0.99572	0.98376	0.97717	0.99236	0.5134	92.1	0.10	0.02	0.53	0.65	0.33	0.11	0.00	0.00	0.76
17年目	H 43	0.99077	0.99335	1.00200	0.99205	0.4936	92.1	0.10	0.02	0.53	0.65	0.32	0.11	0.00	0.00	0.76
18年目	H 44	0.99069	0.99326	1.00200	0.99199	0.4746	92.1	0.10	0.02	0.53	0.65	0.31	0.11	0.00	0.00	0.76
19年目	H 45	0.99060	0.99316	1.00200	0.99193	0.4564	92.1	0.10	0.02	0.53	0.65	0.30	0.11	0.00	0.00	0.76
20年目	H 46	0.99051	0.99321	1.00199	0.99186	0.4388	92.1	0.10	0.02	0.53	0.65	0.29	0.11	0.00	0.00	0.76
21年目	H 47	0.99033	0.99312	1.00198	0.99179	0.4220	92.1	0.10	0.02	0.54	0.65	0.27	0.11	0.00	0.00	0.76
22年目	H 48	0.99023	0.99307	1.00198	0.99166	0.4057	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.26	0.11	0.00	0.00	0.76
23年目	H 49	0.99014	0.99302	1.00198	0.99159	0.3901	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.25	0.11	0.00	0.00	0.76
24年目	H 50	0.99004	0.99297	1.00197	0.99152	0.3751	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.24	0.11	0.00	0.00	0.76
25年目	H 51	0.99004	0.99297	1.00197	0.99152	0.3607	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.23	0.11	0.00	0.00	0.76
26年目	H 52	0.98994	0.99292	1.00197	0.99144	0.3468	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.23	0.11	0.00	0.00	0.76
27年目	H 53	0.98984	0.99287	1.00196	0.99137	0.3335	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.22	0.11	0.00	0.00	0.76
28年目	H 54	0.98973	0.99282	1.00196	0.99129	0.3207	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.21	0.11	0.00	0.00	0.76
29年目	H 55	0.98963	0.99277	1.00196	0.99122	0.3083	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.20	0.11	0.00	0.00	0.76
30年目	H 56	0.98952	0.99272	1.00195	0.99114	0.2965	92.1	0.09	0.02	0.54	0.65	0.19	0.11	0.00	0.00	0.76
31年目	H 57	0.98941	0.99266	1.00195	0.99106	0.2851	92.1	0.09	0.02	0.55	0.65	0.19	0.11	0.00	0.00	0.76
32年目	H 58	0.98929	0.99261	1.00194	0.99098	0.2741	92.1	0.09	0.02	0.55	0.65	0.18	0.11	0.00	0.00	0.76
33年目	H 59	0.98918	0.99255	1.00194	0.99090	0.2636	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.17	0.11	0.00	0.00	0.76
34年目	H 60	0.98906	0.99250	1.00194	0.99081	0.2534	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.16	0.11	0.00	0.00	0.76
35年目	H 61	0.98894	0.99244	1.00193	0.99073	0.2437	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.16	0.11	0.00	0.00	0.76
36年目	H 62	0.98881	0.99238	1.00193	0.99064	0.2343	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.15	0.11	0.00	0.00	0.76
37年目	H 63	0.98870	0.99233	1.00193	0.99056	0.2253	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.15	0.11	0.00	0.00	0.76
38年目	H 64	0.98859	0.99228	1.00193	0.99048	0.2166	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.14	0.11	0.00	0.00	0.76
39年目	H 65	0.98848	0.99223	1.00193	0.99040	0.2083	92.1	0.08	0.02	0.55	0.65	0.14	0.11	0.00	0.00	0.76
40年目	H 66	0.98837	0.99218	1.00193	0.99032	0.2003	92.1	0.08	0.02	0.56	0.65	0.13	0.11	0.00	0.00	0.76
41年目	H 67	0.98826	0.99213	1.00193	0.99024	0.1926	92.1	0.08	0.02	0.56	0.65	0.13	0.11	0.00	0.00	0.76
42年目	H 68	0.98815	0.99208	1.00193	0.99016	0.1852	92.1	0.08	0.02	0.56	0.65	0.12	0.11	0.00	0.00	0.76
43年目	H 69	0.98804	0.99203	1.00193	0.99008	0.1780	92.1	0.08	0.02	0.56	0.65	0.12	0.11	0.00	0.00	0.76
44年目	H 70	0.98793	0.99198	1.00193	0.99000	0.1712	92.1	0.07	0.02	0.56	0.65	0.11	0.11	0.00	0.00	0.76
45年目	H 71	0.98782	0.99193	1.00193	0.98992	0.1646	92.1	0.07	0.02	0.56	0.65	0.11	0.11	0.00	0.00	0.76
46年目	H 72	0.98771	0.99188	1.00193	0.98984	0.1583	92.1	0.07	0.02	0.56	0.65	0.10	0.11	0.00	0.00	0.76
47年目	H 73	0.98760	0.99183	1.00193	0.98976	0.1522	92.1	0.07	0.02	0.56	0.65	0.10	0.11	0.00	0.00	0.76
48年目	H 74	0.98749	0.99178	1.00193	0.98968	0.1463	92.1	0.07	0.02	0.56	0.65	0.10	0.11	0.00	0.00	0.76
49年目	H 75	0.98738	0.99173	1.00193	0.98960	0.1407	92.1	0.07	0.02	0.57	0.65	0.09	0.11	0.00	0.00	0.77
合 計								4.50	0.95	28.53	33.98	15.08	5.88	0.47	5.41	39.86
																17.70

参考様式－1

路線名	箇所名	車線数	延長
小谷道路	穴平～下平(全体事業費)	2	4.6km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費						21,411
改良費						7,641
		土工	m ³	148,722	150	切土、盛土
		法面工	m ²	41,010	935	切土法面、盛土法面
		アンカー工	本	1,484	871	
		切土補強土工	m	37,871	1,515	
		落石雪害防止工	m	615	876	雪崩予防柵
		擁壁工	m	1,793	640	L型擁壁、ブロック積擁壁、重力式擁壁、もたれ式擁壁等
		軽量盛土工	m ³	30,160	2,288	EPS工法
		管渠工	m	655	12	ヒューム管
		函渠工	m	80	216	
		排水工	式	1	76	
		構造物撤去工	式	1	61	
		仮設工	式	1	2	工事用道路
橋梁費						7,658
		長大橋	m	773	5,070	
		中小橋	m	222	2,587	PC橋2橋、鋼橋3橋
トンネル費						4,794
		NATM	m	1,070	4,794	1本
舗装費						296
		車道舗装	m ²	22,975	276	
		歩道舗装	m ²	5,455	20	
付帯施設費						1,023
		交通管理施設工	式	1	444	縁石工、防護柵工、融雪工
		遮音壁	m	1	579	
②用地及補償費						287
用地費						265
		宅地	m ²	4,150	75	
		田畑	m ²	14,430	130	
		山林	m ²	37,170	56	
		原野	m ²	4,688	5	
		補償費	件	5	22	家屋、小屋、電柱
③間接経費						3,602
			式	1		地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費						25,300

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

参考様式－1

路線名	箇所名	車線数	延長
小谷道路	穴平～下平(残事業費)	2	4.6km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
①工事費					847		
改良費					373		
		土工	m ³	1,168	0.45	切土、盛土	
		法面工	m ²	59	0.06	切土法面、盛土法面	
		アンカー工	本	-			
		切土補強土工	m	1,390	56		
		落石雪害防止工	m ³	-			
		擁壁工	m	-			
		軽量盛土工	m ³	3,150	239	EPS工法	
		管渠工	m	-			
		函渠工		-			
		排水工	式	1	28		
		構造物撤去工	式	1	50		
		仮設工	式	1	0.20		
橋梁費					425		
		長大橋	m	-			
		中小橋	m	93	425		
トンネル費							
		NATM	m	-			
舗装費					37		
		車道舗装	m ²	2,928	35		
		歩道舗装	m ²	683	3		
付帯施設費					12		
		交通管理施設工	式	1	12	縁石工、融雪工	
		遮音壁	m	-			
②用地及補償費							
用地費			m ²				
		宅地	m ²	-			
		田畑	m ²	-			
		山林	m ²	-			
		原野	m ²	-			
補償費			式	-			
③間接経費				式	1	140	設計等にかかる費用及び予備費
全体事業費					987		

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

参考様式－2

路線名	箇所名	車線数	延長
国道148号	小谷道路	2/2	4.6km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円/年)	備考
維持費・雪寒費	km	4.6	13.8	巡回、清掃、補修等・除雪等
維持管理費合計			13.8	

【単価等について】

○維持管理費は、長野県版の年間維持管理費、年間雪寒費に基づき算出。